

社会福祉法人

令和7年5月号



葦の家福祉社会だより

ベストショット!発表



令和6年度

各事業所の「推し」はコレだ!

今号のトップページでは、各事業所の雰囲気を写真で知ってもらおうと、『ベストショット』企画をお届けします。私たちは障がいがある仲間たちが自らの望む生活を営むことができるよう、さまざまな支援を行っています。そんな中で仲間たちもいろいろな表情を見せてくれます。そこで昨年度1年間、各事業所で撮影された写真の中から「推し」の1枚を上げてもらいました!

支援する私たちのやりがいにもなっている、そんな仲間たちの生き生きとした表情をぜひご覧ください!



グループホーム

共同生活援助

「ゆったりテレビを見ていたら、頭の上ののっかってる?」



えーる油山

生活介護事業

マイクを向けられ、涙を出して大笑い♪



葦の家

生活介護事業

大好きなお寿司! お腹いっぱい食べました♪

ショートステイ

ショートステイ葦の家
りーど

泊り明けでも元気
全快！出勤前にツ
ーショット！！



放課後等支援

若特女子界限♡♡
放課後のガールズトーク
(☒☉>∪<☉)



ヘルパーステーション ほっとほっと

暑い夏でも汗をかいて気分
リフレッシュ♪
ヘルパーとのお散歩場面

新えーる油山情報！

令和7年7月
開所予定なのだ！



餅投げを行いました



1/11(土)に新しい『えーる油山』の新築工事の無事と安全を祈願して、「上棟式」と「餅投げ」を行いました。

当日は心配していた雨も降らず、地域の方々にも多数お越しいただき、無事執り行うことができました。

紅白のお餅やお菓子が、上からどんどん降ってくる様子にみんな大興奮！「新えーる油山」への期待が膨らみました。



これからの予定

建物全体を覆っていた足場シートが外れ、建物の姿が見えてきました。工事は急ピッチで行われており、5月下旬に竣工の予定です。6月に諸々の準備を経て7月から開所する予定です。これまでのたくさんの方々のご協力に感謝申し上げます。

令和 7 年度事業計画

えーる油山建設は補助金決定を受け、令和 7 年前半にも移転・運営開始できる見込みとなりました。新しい環境の中、法人内事業所間で連携しながら、あらためて地域に根差した事業展開を行っていきます。

葦の家では仲間たちの高齢化に伴う身体能力の低下、突発的な体調不良となる仲間が見られるようになってきており、通所事業所だけではご家族の受け止めが難しくなるケースも増えてくると考えられます。そのため、親元から離れ生活できるグループホームや緊急時対応ができる短期入所などのニーズが高まっています。地域生活支援の拠点である「りーど」の使い方も見直していく必要があります。

今後の法人運営を進めていく上では、現在の情勢に対応できる組織体制づくりも急務です。各事業所に求められているものを明確にし、職員がモチベーションをもって働くことができる体制を目指します。また本年度は、役員・評議員改選の年であるため、法人運営に資する人材を確保し、適切な手続を経て選任を行っていきます。昨年度、「法人運営継続のための仕組みづくり」「えーる油山移転および跡地の有効活用」「生活支援事業の安定」をテーマに 3 チームに分かれて取り組んだ内容を本年度はさらに深めていくため、今年度は以下の重点目標に向けた取り組みを行っていきます。

○今年度の重点目標

①ニーズに向かって推進していくことができる法人の組織体制づくり

- ・ 宿泊勤務が可能な職員を増やすことにより、生活支援を支える基盤づくりを行います。そのための人事異動や人事考課の仕組みを見直します。
- ・ 事務職員の役割を明確にし、人材育成を図るとともに、ソフト導入による事務作業の効率化を推進します。
- ・ コンサルティング会社からの助言を受け、新しい人事評価制度、給与制度の構築に取り組みます。

②新しい役員体制の確立

- ・ 現役員等も含め、現在の法人の状況を理解していただいている方を中心に、全体の構成なども考慮した上で適切に選任していきます。またその選任過程に不備がないようガイドライン等に沿って適切に手続きを進めていきます。

③りーど（すまいるホームを含めた）の運営の再構築

- ・ 人材確保が難しい中、実質的に空床となっているすてっぴの活用等について、利用者のニーズや運営面での課題のバランスを考えた活用方法を検討します。

④えーる油山の跡地の活用方法の検討

- ・ 事業所移転後の土地の活用について検討を始めます。（2 年間で方向性を固める）

⑤地域に開かれた施設づくり

- ・ えーる油山の移転により法人内の施設が 1 カ所に集中することもあり、これまで以上に地域に開かれた施設づくりを進めます。地域と連携した取り組み、授産活動を通じた地域との交流、わはは祭りはじめとする地域への情報発信（働きかけ）を強化していきます。





入所式を行いました

4/18（金）にえーる油山と葦の家での合同入所式を行いました。えーる油山にはこの春に特別支援学校を卒業した2名が入所され、葦の家には昨年度途中から1名の仲間が新たに加わりました。この3名の仲間の入所をお祝いし、2施設合同の入所式としました。

当日は仲間の会や保護者会の皆さんなどからお祝いの言葉をいただきました。3名の仲間の今後の活躍に期待します！



障がい者週間記念の集い



12/8（日）福岡市役所西側ふれあい広場・九州広場で行われた「障がい者週間記念の集い」にえーる油山・葦の家合同で参加しました！当日は天気にも恵まれ、たくさんの来場者の前で、『わははサンバ』を披露してきました。授産品の販売も同時に行い、葦の家・えーる油山のことを存分にアピールすることができました。

救急救命講習を受けました

福岡市民防災センターと城南消防署の方に来ていただき、成人救命救急講習を受けました！昨年度までのおさらいで、AEDを使うまでの流れを確認し、その後、仲間（利用者）が食事中に喉に詰まらせた想定で救命救急訓練を行いました。仲間役は40kgの人形です。喉つめが発生したあと、呼吸確認や119番通報、AED、胸骨圧迫の訓練をしました。

実際に行ってみると、119番通報が遅かったり、通報時に質問に答えられなかったり、応援職員を呼んでいなかったりといった気づきがたくさんありました。他にも、送迎車内で心肺停止が起きた時にどうしたらよいのか、実際に車両を目の前にして、

みんなで話しました。事業所への連絡はどうか、119番で所在地を伝えるのに、どうやって住所を確認するのか、本人への対応はどうか、などなど…

消防署の方に教えていただくことも多かったですが、事業所内で事前に確認し、みんなで共有しておくことも、まだまだたくさんあると学びました。



法人実践研究発表会を開催しました！

葦の家福祉会では年に1度、全6事業所からの実践研究内容を発表する実践発表誌を制作しています。今年度も本人主体の支援の在り方や、職員間の共通認識による支援の大切さ、重度の障がいがある方の「働く」ことの意味など、さまざまな視点により取り組まれてきた実践の内容をそれぞれのレポートにまとめています。

そのレポートの中からピックアップしたものを「実践研究発表会」で発表しており、昨年度は2/16（日）にその発表会を開催しました。地域の自治会長や民生委員、区社協、特別支援学校在校生保護者、他事業所職員など、たくさんの方にご来場いただきました。

発表と質疑応答を通して、地域の関係者の方々に事業所での支援についてより理解を深めていただくとともに、私たち自身も日頃の実践を振り返るよい機会となりました。



各種補助事業を受け、設備改修などを進めています

昨年度は、新える油山の建築にかかる施設整備補助金の決定が大きなニュースでしたが、その他にも各種補助事業を受け、送迎車両の確保や施設設備の改修を行いました。

える油山では新施設への移行に伴う利用者増に対応するため、公益財団法人日本財団からの福祉車両助成事業を受け送迎車の導入を行いました。ほかにも公益財団法人出光美術館の社会福祉助成金による2件の設備改修

(葦の家:自動水栓化を含む水回り改修、りーど:エアコン11台の入替)を行いました。これにより各事業所の支援環境もさらに向上したのではないかと思います。



異動・移転等のお知らせ

- ◆**人事異動** (管理職人事) 【就任】岡村 亜紀 生活介護事業 葦の家 管理者 (4/1 付)
- ◆**事業所移転** 【える油山】(旧) 福岡市城南区東油山1丁目6-39 (7/1~) (新) 福岡市城南区樋井川3丁目11-13 ※電話・FAX番号に変更はありません
- ◆**受託終了** 【福岡市立屋形原特別支援学校放課後等支援事業】 ※委託期間満了による終了(現在は別事業所が運営)



葦の家（生活介護）

バスハイクで水族館に行ってきました！

大型バス 2 台でマリンワールドへ行ってきました。仲間の会でいくつか候補を挙げ、仲間たちと一緒に行き先を決めました。

行きの道中の車内では、生き物〇×クイズを行い、とても盛り上がりました。現地へ着くと、仲間たちは笑顔で今か今かと入館を待っていました。

入館後、各班に分かれて観覧しました。イルカショー、大水槽、ペンギンビーチをそれぞれ楽しみました。落ち着いて館内を回ることができ、薄暗い場所でも楽しく過ごすことができました。もう一つの楽しみのお弁当には、大きな唐揚げが入っていて、みんな美味しくいただきました！



班ごとに、事前に館内をどのようにして回るのか計画を立て、仲間たちと一緒に楽しめる方法を考えました。施設から近いということもあり、ゆっくりとした時間を過ごすことができました。当日は天候にも恵まれ、仲間たちの楽しそうな表情を見ることができたバスハイクでした。

（サービス管理責任者：長野）

えーる油山（生活介護）

地域交流をだいに ～あーす保育園さんとの交流から～

毎年3月は、『あーす保育園』の園児さんの作品を、通りに面した事業所の窓に展示させてもらっています。「こんなに大きくなったよ」と自分たちの成長を自画像にした年長児さんの作品です。その作品を仲間たちと装飾して、卒園のお祝いとして展示しています。写真は、その展示を観に来てくれたときのものです。



卒園式の日には、親子でこの展示を観に来てくださったり、写真を撮られたりと、ほっこりとした場面がありました。

仲間たちからは、「一年生になっても頑張ってるね」と声をかけるなど、微笑ましい交流の場面が生まれていました。

（支援員：山内）

若久特別支援学校放課後等支援事業

🌟🏠たんぼぼルーム専用棟の開所🏠🌟

今年4月、若久特別支援学校運動場内に、念願のたんぼぼルーム専用棟が完成しました🏠

ルームの入り口に、昨年度の高等部卒業生らが作成してくれた立て看板と一緒に設置しました🌸

開所日当日にはルーム内を風船で

いっぱいにして皆でお祝いしました🎈🌟初めての専用棟に緊張する子ども、戸惑いなくリラックスする子ども、それぞれの表情で新しい春がスタートしました。子どもたち、スタッフ皆で新しいたんぼぼルームを作っていきたいと思います🎵

(責任者：大塚)



ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

苦手な環境を乗り越えて念願のゾウに会う！

「ヘルパーさんとゾウに会いに行く！」福岡市動物園にアジアゾウが到着したニュースをみた A さんが家族に伝えた言葉です。A さんは初めての経験にすごく緊張される一面があり、そのようなチャレンジを宣言したことに一番ご家族が驚いたようです。ヘルパーとして A さんの不安を解消できるよう提示カードを作成しました。(図参照)「いつもと違うバス路線の提示」「外出の全体の流れを提示」これらを事前に A さんへ伝える事で不安を少しでも軽減させてあげたいと考えたからです。

外出当日、緊張しながらも動物園へ行くことができ、目の前で小象が動いた様子をカメラに納める A さん。その瞬間緊張していた表情からフワッと笑みがこぼれ、嬉しそうに何枚も写真を撮り念願達成の一日になりました。

(支援員：桂木)



相談支援 (基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ)

令和7年度の城南区障がい者基幹相談支援センターの取り組み

新年度になり、新入学や就職等で新たな環境での生活をスタートさせている方も多いのではないかと思います。城南区障がい者基幹相談支援センターでは、障がいや疾病のために進学や就職の際により準備が必要なお子さん、ライフステージの変化により支援者が変わっても、安心して次の生活に進めるような取り組みを検討したいと考えています。今年度は、「障がい児のケアマネジメント」をテーマに、城南区内のネットワーク構築を進めていきます。

実際に城南区のケースの中では、「ライフステージの変化で支援者が離れてしまい、家族が困りごとを抱え込んでしまった、新しい支援者の誰に相談したらいいか分からなくなってしまった」等の課題が上がっていました。幼少期からのご本人の情報や支援内容が、次のステージの支援者に十分に引き継がれていくことで、ご家族の安心やお子さんの健やかな成長につながっていくのではないかと思います。城南区が暮らしやすい地域となるように、地域の皆様のお力もお借りしながら、今年度も活動していきたいと思っております。

(相談支援専門員：佐藤)

* 城南区障がい者基幹相談支援センターは、福岡市が設置する「福岡市障がい者等地域生活支援協議会」の「城南区部会」の事務局として地域づくりに取り組んでいます。ご興味のある方は右記のQRコードから協議会のHPにアクセスできますので、取り組みの内容をご覧くださいませ。



グループホーム (すてっぷ・すまいるホーム)

「地域の防災訓練、水防訓練に参加しました」



昨今の異常気象や天災等、暮らしの中での不安要素を解消すべく、昨年11月に『樋井川中央公園地域スタッフ防災訓練』、今年3月には『水防訓練』に参加しました。訓練と聞くとなんとなく、かしこまった形式ばった訓練があるのかな…とやや緊張気味でしたが、実際には「あら、葦の家さん」とご近所さんからお声掛けいただき和やかムード。カセットガス式のポータブル電源などで電気系統が遮断された際の光源の確保に始まり、ビニール袋に材料を入れて茹でる炊き込み

ご飯づくり(予想に反してなかなか美味しい!)といった食の確保、ペットボトルを用いて汚れた水をろ過する水の確保など、緊急時に役立つノウハウを地域の皆さんと共に学ぶことが出来ました。

水防訓練では、川の氾濫を想定した土のう作りを体験し、実際に土のうの積み方も学ぶことが出来ました。翌々日に筋肉痛に襲われたのは言うまでもありませんが…。

いずれの訓練においても、実際に大災害での被災経験がある方のお話も伺うことでより生きた情報を取り入れることが出来ました。それらの情報をホームに還元し今後の為、仲間の為に、しっかりと備えていきたいです。

(支援員：安部)



社会福祉法人 葦の家福祉会だより

令和7年5月号

発行日 令和7年5月1日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川4丁目1-17

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <https://ashi.sakura.ne.jp>



法人ホームページ